

# JASA国際委員会海外視察企画

---

## タイ視察レポート

廣田

2016/06/28

# Contents

---

**1. 目的**

**2. タイについて**

**3. 視察内容**

**5. 感想**

# 1. 目的

---

## 視察の目的

海外経験のない中堅管理職に対し、直接現地に触れ、体感することでグローバル化の視点を植え付け、海外出張や海外勤務などに関し抵抗を少なくする

## 視察先

グローバル化に対応できる中堅管理職の養成の場として、ASEAN(AEC)で最も産業蓄積が進んでおり、生産拠点から、消費地としても見直されつつあり、IT産業も成長してきているタイへの視察を企画した。

## 2. タイについて

### タイ王国



- 1 面積 51万4,000平方キロメートル(日本の約1.4倍) 50位
- 2 人口 6,718万人(2014年) 20位
- 3 首都 バンコク
- 4 民族 大多数がタイ族。その他 華人, マレー族等
- 5 言語 タイ語
- 6 宗教 仏教 94%, イスラム教 5%
- 7 総貿易額(2015年)  
(1)輸出 2,121億ドル (2)輸入 1,775億ドル
- 8 主要貿易品目  
(1)輸出 コンピューター・同部品, 自動車・同部品, 機械器具, 農作物, 食料加工品  
(2)輸入 機械器具, 原油, 電子部品
- 9 主要貿易相手国・地域(2015年)  
(1)輸出 1.米国 2.中国 3.日本 (2)輸入 1.中国 2.日本 3.米国
- 10 GDP 3952億ドル(日本の約1/12 **ベトナムの約2倍**)  
5,878ドル/1人(日本の約1/7 **ベトナムの約2.5倍**)
- 11 経済成長率 2.8% (ベトナム6.68%)
- 12 失業率 **0.8%** (ベトナム2.31%)



# 3. 視察内容

6/14

キックオフミーティング（ゲスト：都産技研 バンコク支所3名）  
オリエンテーリング、自己紹介、タイの紹介など

6/15

AM 日泰経済技術協会(TPA)訪問  
TPAの説明、ディスカッション  
TPA付属技術振興センター視察  
(校正サービス(工業計測機器/実験器具校正・検査)など)



- ・親日であること、電力やインフラがしっかりしている。日本企業とは50年で日本人は6万人位
- ・産業研修、言語研修、文献収集・翻訳、キャリブレーション(機器校正)などの事業。
- ・高齢化(人口ボーナスは今年まで)、給与上昇、今後先進国になれるのかがタイの課題。
- ・今後、IoT(工場の自動化)など、日本の専門家を招聘して行いたい。
- ・価値を上げることが急務(パーツから組み立てへ～デザイン、開発、サービス)
- ・日本の技術はそのまま使えない、チューニングが必要

# 3. 視察内容

6/15

PM 泰日工業大学(TNI)訪問  
TNIの説明、ディスカッション  
泰日工業大学内視察  
(講義風景、映像製作現場など)



TPAは、創立30周年を迎えた2003年、これまでの事業実績・経験を生かして「日本型ものづくり大学」の設立を決定、2005年3月、バンコク市内に土地を購入し、2006年1月に大学施設の建設を開始、2007年2月に第1期工事を完了、2007年6月開校

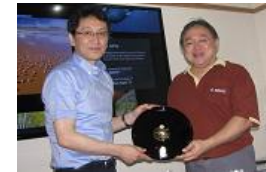
- 日系企業のニーズに対応して日本的ものづくり思想のもと、専門能力、語学(英語・日本語)
- 企業のニーズに応えた教育を実施。
- ニーズが企業にアンケートしている。
- IT関連の学生の多くはタイ国内で就職している  
(ソフトウェア開発を行うというより、導入や保守を行う企業が多いようである)

# 3. 視察内容

6/17

## AM Instepグループ訪問

タイの現状、Instepグループ企業説明、ディスカッション  
視察（開発現場など）



- 社員約200名
- グループCEOのウィワットさんは東京大学卒業。
- 入退室管理システムなどを開発販売している。  
画像処理や高速演算アルゴリズムなどを得意としておりFPGA用のIPはNASAに採用された
- ソフトウェアやハードウェアの開発を各グループ会社で行っている。
- TPAの話と同様、現在タイは今後先進国の仲間入りするのか、停滞するのかの分岐点。
- 農業が最大の産業だが、全体の40%まで落ちている。
- 製造業は日本からで、繊維に始まり現在は自動車がメインになっている。
- 給与は上がっているが、日本のメーカーからはコストダウンを迫られている。  
タイは給与に合わせ、価値を上げていきたいが、日本企業には困っている。
- タイは東南アジアでは憧れの国で、各国から出稼ぎに来ている(ミャンマーからは600万人)



# 3. 視察内容

6/17

PM アマタナコン工業団地（太田テクノパーク内DAIWA ASIA）訪問  
オオタテクノパーク・DAIWA ASIAの説明、ディスカッション  
泰日工業大学内視察



- アマタナコン工業団地はかなり広く、日本のメーカーが非常に多く存在している。
- 工業団地はアマタナコンコーポレーションが土地を取得、建物を建て貸出を行っている。
- オオタテクノパークは大田区の中小製造業が集まって区画を借りている
- DAIWA ASIAでは自動車の照明系ハーネス等の製造(少量・多品種)を手で行っている。
- タイの人は、丁寧に教えれば真面目に仕事に取り組んでくれる。
- 人は給与の良ければパーク内ですぐ移ってしまうので、引き留めるための施策は苦勞する。
- タイでは給与水準が高いため、単純作業はラオスで移す(既に工場設立済) 給与は1/3
- タイの最低給与は300バーツ/日、単純作業のワーカーでも約4万円/月位になるらしい。



# 3. 視察内容

6/17

PM 東京都立産業技術研究センター（バンコク支所）訪問  
TPAの説明、ディスカッション



- 2015年4月設立、現在3名で対応している。
- 3名中2名は企業(大手電機メーカー)のOBで、国際経験豊富という事で声がかかったとの事。
- タイ工業省や現地の工業会、東京都中小企業振興公社などの公的な経営支援機関と連携。
- 現地での企業に対する技術支援に取り組んでいる。
- 支援の内容は主に、パーツ加工やPLC関連がほとんどで、マイコン関連はほとんど無い。
- タイは元々繊維や食品加工が中心だったが、90年代にインフラが整備されカーメーカー、Tier1、2が入ってきた、自動車は裾野が広いため大きく伸びた。
  
- 帰国後、JASA懇親会で東京都立産業技術研究センターの理事と話したところ、海外展開はバンコクが初めてであり、結果を出さなければならないので、必死になっているとの事。

## 4. 感想

---

### タイ(というよりバンコク)について

街中は東南アジアという印象(ハノイなどに似ている)があるが、実際に街中を歩いたり、地下鉄に乗ってみたりすると、ベトナムに比べかなり成熟していることがわかる。(どこでも道を横断しない、信号は守る、道を譲る、店員が丁寧、電車の待ち行列を乱さない、切符の買い方を教えてくれる)

英語や日本語もある程度通じるので、コミュニケーションはあまり困らない。

自動車取得に対する優遇措置があつたらしく、走っている車は殆ど最新型で、それもほとんどが日本車である。

この優遇措置で車を買った人が多く、その後支払の為GDPが落ちたとの事である。

### タイにITについて)

自動車などの製造業で発展してきたため、IT関連の事業は極めて少ないようだ。

IT企業もそれなりにあるようだが、ソフトウェア開発というよりもシステム導入や保守などが中心らしい。

自国で自ら開発するような土壌もなさそうだし、他の国からオフショアで請けようにも、今からベトナムなどには太刀打ちできる状況ではないと思われる。

タイに進出したカーメーカー等からソフトウェアの現地生産なども考えられるが、これでは先進国になれない。

タイは非常に難しい局面にあると強く感じる視察であつた。

---

*END*

---